

工場 設置 変更 認可申請書

令和●年●月●●日

中野区長 殿

住所 中野区中野●-●-●

氏名 株式会社 中野環境

代表取締役 中野 太郎

(法人にあっては名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)

都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 第81条第1項 第82条第1項 の規定により認可を受けたいので、関係書類を添えて、次のとおり申請します。

既認可番号等	認可番号・年月日	第 号 年 月 日			
	変更事由	1 業種	2 作業	3 建物	4 施設
工場の名称	中野印刷工場				
工場の所在地	中野区東中野●-●-●				住居表示で記載して下さい
地域等	用途地域		水域		
	商業地域		公共下水道		
業種① 作業の種類②	①印刷業		②0.75kW以上の動力を使用する印刷又は製本		
	日本産業分類の中分類を記載して下さい				
主要生産品目	チラシ、冊子などの商業		主要生産品目を記載して下さい		通常の作業時間を記載してください
資本金	1000万円		作業時間	8時30分から17時30分まで (8時間)	
自動車の出入口が接する道路の幅員	4m	車道、歩道植樹帯含む	100メートル以内の学校・病院等の所在位置	有	△位置:別紙(案内図)のとおり
工事着工予定	令和●年●月●日		工事完成予定	令和●年●月●日	
従業員数	10人		常用雇用者数	10人	
公害防止担当部課	担当部課 工場長 責任者氏名 中野 太郎		認可工場掲示板に記載される責任者になります		
連絡先	所属 総務課 氏名 中野 花子 電話番号 03-****-**** (ファクシミリ番号 03-****-****)		電子メールアドレス)		
※受付欄			※手数料		

- 備考 1 ※印の欄には記入しないこと。
 2 「既認可番号等」の欄は、変更認可申請時のみ記入すること。
 3 △印の欄には、申請書に添付する各別紙に一連番号を付けた上、該当する別紙の番号を記入すること。
 4 「用途地域」の欄には都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域を、「水域」の欄には条例別表第7-4の部の付表の水域細区分の欄に掲げる水域を記入すること。
 5 「業種①、作業の種類②」の欄の「①」には日本標準産業分類の中分類項目を記入すること。また、「②」には条例別表第1に掲げる工場の種類を記入すること。
 6 「100メートル以内の学校・病院等」とは、工場の敷地の境界線から100メートル以内の学校及び病院並びに50メートル以内の保育所、診療所(患者を入院させるための施設を有するものに限る。)、図書館、特別養護老人ホーム及び幼保連携型認定こども園をいう。
 7 「公害防止担当部課」の欄の「責任者氏名」には、公害防止管理者を置いている工場にあっては、公害防止管理者の氏名を記入すること。

その2

敷地・建物の状況	敷地面積	1 変更後（設置） 1297.20 m ²	2 変更前 m ²			
	建物の配置等	△別紙（配置図）のとおり				
	建物の棟別用途・構造・面積等	△別紙（配置図）のとおり				
	周囲の状況	△別紙（案内図）のとおり				
施の状況	機械・設備等の施設	△別紙（機械設備明細書）のとおり				
	構造・配置・使用方法	△別紙（機械配置図）のとおり				
動力用電力の合計（kW）		その他の電力の合計（kW）	総燃料油使用量（ℓ/日）	総用水量（m ³ /日）	取水方法	総排水量（m ³ /日）
1	90.6	3.0	なし	11	上水道	11
2						2は変更があった場合、変更後について記載する
工場で取り扱う有害ガス又は有害物質		別紙 使用薬剤一覧のとおり <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">有害ガス、物質一覧を参考にして扱いがあれば「有毒ガス等確認様式」に記載して下さい。</div>				
作業の工程		材料（紙）の搬入→印刷（印刷機）→断裁（断裁機）→梱包（梱包機）→製品の出荷				
		屋外の作業	なし			
公害防止措置の概要（一時的作業に伴う措置を含む。）		壁：ALC100 床：土間コンクリート 周囲：コンクリートブロック（H=1.7m） 空気圧縮機は低騒音型を使用し、防音室に設置する。作業中は窓・ドアを閉める。				

- 備考
- 1 「建物の配置等」、「建物の棟別用途・構造・面積等」及び「機械・設備等の施設」の欄の別紙は、それぞれ、施行規則別記第7号様式の別紙1その1、その2及びその3を使用すること。
 - 2 「周囲の状況」の欄の別紙は、近隣の建物の用途、構造及び配置並びに道路の状況等を明らかにした図面とすること。
 - 3 「構造・配置・使用方法」の欄の別紙は、施行規則別記第7号様式の別紙2から別紙7までのうち該当する様式を使用すること。
 - 4 「動力用電力の合計」から「総排水量」までの欄は、設置認可申請時には「1」欄のみ記入すること。
 - 5 「動力用電力の合計」の欄には原動機の定格出力の合計を、「その他の電力の合計」の欄には電熱用電力、電解用電力等、直接当該工場の作業の用に供する電力で動力用電力以外のものの合計を記入すること。
 - 6 「工場で取り扱う有害ガス又は有害物質」の欄には、条例別表第3 有害ガスに掲げる物質又は別表第4 有害物質に掲げる物質のうち工場に取り扱っているものを記入すること。

建物の棟別用途・構造・面積等							
棟別 番号	新既 の別	用 途	階 数	構 造	建築面積 (㎡)	床面積 (㎡)	作業場面積 (㎡)
1	新	作業場・事務所	2	鉄骨造・ALC	400.00	800.00	400.00
建物が複数ある場合は記載して下さい					延べ床面積を記載して下さい		
合		計			400.00	800.00	400.00

施設番号は機械配置図と同一にして下さい

100V、200Vに関わらずモーターの出力を記入(総数)

ヒーターや溶接機等モーターのないものを記入

機械・設備等の施設

工場における施設番号	新既の別	種 類	公称能力	台 数	動力用電力 (kW) (原動機)		その他の電力 (kW) (原動機以外)	
1-1	新	オフセット平版印刷機(5色)	—	1	23	00		
1-2	新	オフセット平版印刷機(2色)	—	1	20	00		
1-3	新	シール印刷機	—	1	8	80		
1-4	新	自動紙揃え機	—	1	1	80		
1-5	新	裁断機	—	2	10	00		
1-6	新	空気圧縮機	—	1	22	00		
1-7	新	排気ファン	—	2	4	00		
1-8	新	結束機	—	1	0	50		
1-9	新	ボイラー	—	1	0	50		
1-10	新	空調設備 (エアコンディショナー)	—	2			3	00
2	新	アルカリ脱脂槽	—	1				
3	新	排ガス洗浄塔	—	1				
4	新	湿式バレル研磨機	—	1				
5	新	排水中和処理装置	—	1				
合 計					90	60	3	00

機械施設の保有する能力を記入
例
機械プレス:呼び加圧能力 294kN
オフセット印刷機:A2 5000 枚/H

空調機はモーターの有無にかかわらずその他の電力欄に記入して下さい

申請書その2の電力欄、その他の電力欄に記載する数値です

ばい煙、粉じん、有害ガス又は悪臭の発生施設の構造・使用の方法

工場における施設番号		1-9	別紙1 その3の番号を記入		
種類・名称・型式		ボイラー			
使用開始（予定）年月日		令和●年●月●日			
規 模	主要寸法 (m) 又は定格出力 (kW)	0.7×0.9×2.0			
	伝熱面積・火格子面積・火床面積 又は羽口面断面積 (㎡)	2.4			
	原材料処理能力 (t/h) 又は焼却能力 (kg/h)	-	●原材料処理能力又は焼却能力 例:金属溶解炉等で1時間あたり金属を溶かす量 例:焼却炉で廃棄物を1時間あたり焼却する量 ●燃料の燃焼量又は変圧器の定格容量 燃料の燃焼量、電解炉等の変圧器の定格容量を記入 ●乾燥施設の容量 乾燥炉等の容量を記入 ●電流容量又はポンプの動力 電解炉等の電流容量、ポンプの動力を記入		
	燃料の燃焼能力 (ℓ/h、m ³ N/h) 又は変圧器の定格容量 (kVA)	-			
	乾燥施設の容量 (m ³)	-			
	電流容量 (kA) 又はポンプの動力 (kW)	-			
使用状況	1日の使用時間・1月の使用日数	8時～17時 25日/月	時 日	時～ 日/	時～ 日/
	季節変動	なし			
原 材 料	種類	-	●原材料 ばい煙、粉じん、有毒ガス又は悪臭発生に影響のあるものについて記入 ●種類 当該施設で使用する原材料の主なる種類について記入 ●使用割合 2種類以上の原材料を使用する場合の使用割合を記入 ●いおう分、カドミウム分又は鉛分 原材料中のいおう、カドミウム又は鉛の含有率を重量%等で記入 ●1日の使用料 原材料の1日の使用料を単位を明確にして記入		
	使用割合	-			
	いおう分 (%) カドミウム分 (%) 又は鉛分 (%)	-			
	1日の使用量	-			
燃 料 又 は 電 力	種類	都市ガス(13A)	●種類 当該発生施設で使用する燃料（重油、灯油等） ●灰分 (%)・いおう (%) 個体燃料の場合は灰分及びいおう含有率を、液体燃料の場合はいおうの含有率を記入 ●発熱量 低発熱量（真発熱量）を記入、電力を使用する場合は容量を記入 ●1日の使用量 燃料の1日使用料を L/日、kg/日、kw/h、m ³ /日で記入 ●1日の使用料 混焼の場合に限り、1日使用量の混焼割合を記入		
	灰分 (%)・いおう (%)	-			
	発熱量	-			
	1日の使用量	-			
	混焼割合	-			
参 考 事 項	-				

備考 1 この用紙は、申請書の「機械・設備等の施設」欄に記入し、この表第1に掲げる施設、同条別表第3に掲げる有害施設（施行規則別記第7号様式の別紙3又は4に該当する）について記入すること。
 2 「いおう分 (%) カドミウム分 (%) 又は鉛分 (%)」の別を明らかにすること。
 3 酸素吹込式の炉については、「参考事項」欄に、酸素吹込量、使用時間等を記入すること。

ばい煙、粉じん、有害ガス又は悪臭の処理の方法

別紙1 その3の番号を記入

処理施設の工場における施設番号		1-9					
処理する発生施設の工場における施設番号		1-9					
処理施設の種類・名称・型式		煙突					
使用開始(予定)年月日		令和●年●月●日					
処理能力	総排出物の量 (m ³ N/h)	最大	-	●総排出物の量 (m ³ N/h) 総排出物の量を温度が摂氏零度で圧力が1気圧の状態に換算して、最大値及び常用値を記入 ●総排出物中の温度(°C) 処理前は入口温度、処理後は出口温度 ●総排出物中の酸素濃度(%)			
		常用	-				
	総排出物の温度 (°C)	処理前	-				
		処理後	-				
	総排出物中の酸素濃度 (%)	処理後	-				
	ばいじん の濃度 (g/m ³ N)	処理前	-				●ばい煙の濃度等 ▷ばいじんの濃度 (g/m ³ N) 温度が摂氏零度で圧力が1気圧の状態に換算した総排出物1立方メートルあたりのグラム数であらわしたばいじんの濃度を処理前は入口の状態、処理後は出口の状態について記入 ▷いおう酸化物の濃度 (容量比 ppm) 温度が摂氏零度で圧力が1気圧の状態に換算した総排出物1立方メートルあたりの容量%でいおう酸化物の濃度を処理前は入口の状態、処理後は出口の状態について記入 ▷窒素酸化物の濃度 (容量比 ppm)
		処理後 (効率%)	()				
	いおう酸化物の濃度 (容量比 ppm)	処理前	-				
		処理後 (効率%)	()				
	いおう酸化物の量 (m ³ N/h)	最大	処理前	-			
			処理後 (効率%)	()			
		常用	処理前	-			
処理後 (効率%)			()				
窒素酸化物の濃度 (容量比 ppm)	最大	処理前	-				
		処理後 (効率%)	()				
	常用	処理前	-				
		処理後 (効率%)	()				
有害ガス・粉じん・悪臭	の濃度 ()	処理前	-	排出する主な有害ガス又は粉じんの名称を記入し、温度が摂氏零度で圧力が1気圧の状態に換算した総排出物1立方メートルあたり、有害ガスは容量比(ppm又は%)で、粉じんはグラム数で、処理前は入口の状態、処理後は出口の状態について記入 悪臭については、悪臭物質の濃度又は臭袋法による臭気指数を記入			
	の濃度 ()	処理後 (効率%)	()				
の濃度 ()	処理前	-					
の濃度 ()	処理後 (効率%)	()					
使用状況	1日の使用時間・1月使用日数		8時~17時 25日/月	時~時 日/月	時~時 日/月	時~時 日/月	
	季節変動		なし				
煙突排気塔	高さ (m)		10				
	頂口径 (m)		0.15φ				
	排出速度 (m/s)		-				

備考 1 ばい煙の濃度等は、乾きガス中の濃度等とすること。
2 有害ガス・粉じん・悪臭の「___の濃度」欄には、有害ガス、粉じんについてはその種類を、悪臭については悪臭の文字を記入し、() 欄には、cm³/m³N、mg/m³N、臭気指数又は臭気排出強度の文字を記入すること。

別紙3

粉じん発生施設（コークス炉）の構造並びに使用及び管理の方法

工場における施設番号					
名称・型式					コークス炉がある場合記載
使用開始(予定)年月日					
規模	原料の処理能力 (t/日)				
	炉室数				
	炭化時間 (h)				
装炭作業	粉じんの処理装置の種類・型式				
	集じん装置の効率 (%)				
	送風機の原動機出力 (kW)				
窯出し作業	粉じんの処理装置の種類・型式				
	集じん装置の効率 (%)				
	送風機の原動機出力 (kW)				
消火作業	粉じんの処理装置の種類・型式				
参考事項					

- 備考 1 「参考事項」欄には、ガイド車の走行する炉床の強度、ガイド車の軌条の幅員等について記入すること。
- 2 粉じん発生施設及び粉じんの処理又は防止のための装置（フードを含む。）の構造とその寸法を記入した概要図を添付すること。

粉じん発生施設（堆積場、コンベア、破砕機、磨砕機、ふるい、
バッチャープラント、製綿機）の構造並びに使用及び管理の方法

工場における施設番号					
名称・型式・基数				該当する機械がある場合記載	
使用開始（予定）年月日					
規模	面積（㎡）・堆積能力（t）				
	ベルト幅（cm）又はバケット内容積（㎡）・運搬能力（t/h）				
	原動機の定格出力（kW）処理能力（t/h）				
使用及び	集じん装置	集じん装置の種類・型式			
		集じん装置の効率（%）			
		送風機の原動機出力（kW）			
び	散水	装置の種類・型式			
		装置の能力（m ³ /h）			
		散水の方法又は運搬量若しくは処理量当たりの散水量（ℓ/t）			
管	薬液の散布	薬液の種類・名称			
		装置の種類・型式・基数			
		装置の能力（m ³ /h）			
		散布の方法			
法	防じんカバーの設置状況				
	その他	方 法			
参 考 事 項					

- 備考 1 「規模」の欄には、堆積場については面積及び堆積能力を、コンベアについてはベルト幅又はバケット内容積及び運搬能力を、破砕機、磨砕機、ふるい、バッチャープラント及び製綿機については原動機の定格出力及び処理能力を、記入すること。
- 2 「散水の方法又は運搬量若しくは処理量当たりの散水量」欄には、堆積場については散水の方法（水量、実施頻度等）を、コンベアについては運搬量当たりの散水量を、その他のものについては処理量当たりの散水量を記入すること。
- 3 「薬液の散布」欄は、堆積場についてのみ記入すること。
- 4 「その他」欄には、堆積場については締固めの装置・型式及び方法並びに散水等と同等以上の効果を有する措置、その他のものにあつては散水等と同等以上の効果を有する措置について記入すること。
- 5 粉じん発生施設及び粉じんの処理又は防止のための装置（フードを含む。）の構造とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

汚水の発生施設の構造等

別紙1 その3の番号を記入

工場における施設番号		2		3		4			
種類・名称・型式		アルカリ脱脂槽		排ガス洗浄塔		湿式バレル研磨機			
使用開始(予定)年月日		令和●年●月●日		令和●年●月●日		令和●年●月●日			
構造		鉄製		塩ビ製					
主要寸法(m)		LWH 0.6×0.8×0.7		LWH 0.6×0.6×1.8					
使用状況	1日の使用時間・1月の使用日数	8時～17時 25日/月		8時～17時 25日/月		8時～17時 25日/月		時～時 日/月	
	季節変動	ナシ		ナシ		ナシ			
原料	種類	カセイソーダ		水		研磨剤			
	使用量(1日あたり)	1.2kg		週1回更新0.4m ²		0.5kg			
	使用方法	溶液添加		週1回更新		添加			
		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
排水量(m ³ /日)		1	1.5	0.4	0.4	0.2	0.4		
汚水の 水質	水素イオン濃度(pH)	11	11	9	9	9	10		
	生物化学的酸素要求量(mg/l)								
	化学的酸素要求量(mg/l)								
	浮遊物質(mg/l)	80	150	20	30	1000	1500		
	外観	茶		無色		灰白色			
	臭気								
	温度(℃)								
	その他の項目	鉄(ppm)	100	200			20	30	
	()								
	()								
	()								
製品又は中間製品の取り出しに際しての廃液分離方法									

*都下水道局へ「特定施設設置(変更)届」を提出している場合は、その写しを添付すれば本様式の記載は省略できます。

汚水の処理の方法

別紙1その3の番号を記入

別紙5その1の番号を記入

処理施設の工場における施設番号		5											
処理する発生施設の工場における施設番号		2, 3, 4											
種類・名称・型式		排水中和処理装置											
使用開始(予定)年月日		令和●年●月●日											
構造		コンクリート、塩ビ製											
主要寸法(m)		4×2.1×3											
能力(m ³ /日)		2.5											
処理の方式		中和、凝集沈殿											
消耗資材	資材名	硫酸、カセイソーダ											
	用途	中和用											
使用状況	1日の使用量	硫酸1.4、カセイソーダ0.2kg											
	1日の使用時間・1月の使用日数	8時～17時 25日/月				時～時 日/月				時～時 日/月			
季節変動		ナシ											
		処理前		処理後		処理前		処理後		処理前		処理後	
		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
処理に係る汚水量・水質	汚水量(m ³ /日)	1.2	2.3	1.2	2.3								
	水素イオン濃度(pH)	11	12	7	8								
	生物化学的酸素要求量(mg/l)												
	化学的酸素要求量(mg/l)												
	浮遊物質(mg/l)	250	500	10	20								
	外観												
	臭気												
	温度(℃)												
その他の項目	鉄()	100	200	2	3								
	()												
	()												
	()												
各排水口の汚水量・水質	排番水口号	汚水量(m ³ /l)	水素イオン濃度	生物化学的酸素要求量mg/l	化学的酸素要求量mg/l	浮遊物質mg/l	外観	臭気	温度(℃)	その他の項目			
		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	通常	1.2	7			10				()	()	()	
	最大	2.3	8			20				()	()	()	
	通常												
最大													
残さ	種類	スラッジ											
	生成量(kg/日)	0.1(水分95%)											
	処理方法の概要	フィルタープレスによる脱水 業者委託											

*都下水道局へ「特定施設設置(変更)届」を提出している場合は、その写しを添付すれば本様式の記載は省略できます。

騒音又は振動発生施設の構造等

工場における施設番号		1-1	1-2	1-3	1-6
種類・名称・型式		オフセット平版印刷機(5色)	オフセット平版印刷機(2色)	シール印刷機	空気圧縮機
公称能力		23kW	20kW	8.8kW	22kW
数		1	1	1	1
使用開始(予定)年月日		令和●年●月●日	令和●年●月●日	令和●年●月●日	令和●年●月●日
使用状況	1日の使用時間・1月の使用日数	8時～17時 25日/月	8時～17時 25日/月	8時～17時 25日/月	8時～17時 25日/月
	季節変動	なし	なし	なし	なし
騒音又は振動の防止の方法		騒音防止として 壁:ALC100 床:土間コンクリート150 天井:グラスウール貼り100 振動防止として 土間コンクリート150	騒音防止として 壁:ALC100 床:土間コンクリート150 天井:グラスウール貼り100 振動防止として 土間コンクリート150	騒音防止として 壁:ALC100 床:土間コンクリート150 天井:グラスウール貼り100 振動防止として 土間コンクリート150	騒音防止として 壁:ALC100 床:土間コンクリート150 天井:グラスウール貼り100 振動防止として 土間コンクリート150
事業用自動車	種類	CNG ワゴン	メタノール トラック	ディーゼル トラック	電動 フォークリフト
	用途	営業用	荷物搬入用	荷物搬入用	荷物積み下ろし 用
	積載量	2,000kg	2,000kg	10,000kg	2,000kg
	台数	1	2	1	1
	1時間当たりの出入回数	-	-	-	-
	1日当たりの出入回数	12	2	2	-

- 備考 1 「騒音又は振動発生施設」とは、金属圧延機械、プレス機械等騒音又は振動を発生する施設をいう。
- 2 「騒音又は振動の防止の方法」欄には、消音器、つり基礎、遮音塀等騒音又は振動の防止に関して講ずる措置を記入すること。できる限り図面、表等を利用すること。

地下水揚水施設の構造等

揚水施設	名称又は番号			
	設置・変更予定年月日	年	月	井戸がある場合記載
	さく井年月日	年	月	日
	深度（地表面下m） ・側管口径(mm)	深度	m、	側管口径 mm
	ストレーナーの位置 （地表面下m）	m～	m、	m～ m m～ m
揚水機	種類・名称・型式			
	原動機の出力・揚水能力	kW		ℓ/分
	吐出口断面積	c m ²		
水測定器	種類・名称・型式			
	検定年月日			
地下水位	計測方法			
	静止水位、揚水水位 （地表面下m）	m		m
地下水揚水量		m ³ （1日平均）		
地下水の用途				
施設数、吐出口断面積の合計、地下水揚水量の合計				
変更前	施設数、吐出口断面積の合計	本		cm ²
	地下水揚水量の合計	m ³ （1日平均）		
変更後	施設数、吐出口断面積の合計	本		c m ²
	地下水揚水量の合計	m ³ （1日平均）		
揚水施設担当者 所属、氏名、電話番号				

- 備考 1 必要に応じ図面を添付のこと。
- 2 複数の揚水施設の設置（変更）の場合は、地下水揚水施設の構造等について、揚水施設別に作成のこと。ただし、「施設数、吐出口断面積の合計、地下水揚水量の合計」の欄については、1枚目に記入し、2枚目以降には記入しないこと。
- 3 完成後、揚水試験を実施したときは、その報告書の写しを提出すること。